

事故種類	事故日	年齢	性別	保険
損害(確認不足)	7/3	74	男	無
庭にある石灯籠に三脚が当たり、四段ある石の基礎を除く上部の三段が落下。重量物のため人では持ち上げられず、当日での修復は不可能。				
損害(不注意)	9/26	87	男	無
草刈場所の移動の際にA会員の前を走っていた車が左折のためブレーキを踏んだためA会員もブレーキを踏んだ。しかし、当該会員は前を走っていたA会員がブレーキを踏んだことに気づかず、車内のブレーキ警告音が鳴ったためあわててブレーキを踏んだが間に合わず衝突。当該会員は走行中、前方のカーブが気になりA会員の車をよく見ていなかった当該会員の前方不注意である。				
損害(不注意)	10/10	74	男	有
剪定作業後に発注者から依頼されていないのに草刈を実施した。小石が多い場所であったのに防護ネットもせずに草を刈った。後日、発注者より車のボディやフロントガラスに傷があるとの連絡があり発注者宅に伺い保険対応とする。しかし今回、発注者より指摘された車の傷がすべて今回の草刈時の傷ではないことが保険会社の調査により判明した。※草刈による傷と代車費用を保険対応。				
傷害(確認不足)	10/22	73	女	有
宇佐神宮での就業中だったが、雨が降り出したので午前9時過ぎに退勤。下り坂を自転車で走行中、急ブレーキをかけた時に路面が雨で濡れていたため転倒した。(右大腿骨骨折)				
傷害(確認不足)	10/29	74	男	有
枝打ちした柿の木を細断する作業中に柿の木の枝に足がひかかり転んだ。左腕をついたところ枝に左手首が当たり、骨にひびがいった。(全治1か月)				

ち、片手でトリマーを操作する行為は危険度が高く、墜落した場所もコンクリート製の階段部分だったことから身体を強打し、骨折等の重篤事故となりました。

就業中の事故の約6割が「墜落・転落」であり、毎年度高い割合で推移しています。中でも植木剪定、樹木伐採等における墜落・転倒の事故が多く、作業現場の確認、複数人での作業、保護具の着用等を徹底してください。



安全だより



Winter 2024



(公社)宇佐市シルバー人材センター
安全委員会

剪定作業等における 事故防止対策

当センターでは剪定作業中における重篤事故が発生しました。同種作業における事故は業種を問わず全国的に発生していることから高所で剪定作業等を行う場合には基本的な安全作業の再確認をお願いします。この度、発生した事故は、幅20センチ、高さ150センチの塀の上でトリマーを使って垣根の剪定中でした。



片足を三脚のステップに置き、もう片足を塀に置いて身体を安定させる。

注意事項

- 作業開始前にKY(危険予知)ミーティングを実施すること
- 現場状況把握後は就業者全員で作業手順を打ち合わせること
- 三脚や梯子など、ブルーシートの上には立ってないこと(すべります)

事故対策

- 不安定な場所で作業しない。
- 三脚を塀の横に立て、片足を三脚のステップ、もう片足を塀に置き重心をしっかりと確保する。
- 高い、長い垣根は1人作業はしない(三脚を持つなどの安全対策を心がける)
- 加齢による身体機能低下を十分認識すること

ハインリッヒの法則(1:29:300の法則)



ヒヤリハット(ヒヤリとしたりハットとしたりする危険な状態)

「ハインリッヒの法則」とは事故の発生についての経験則。1件の重大事故の背景には、重大事故に至らなかった29件の軽微な事故が隠れており、さらにその背後には事故寸前だった300件の異常、いわゆるヒヤリハットが隠れているもの。

ハインリッヒの法則が示す教訓は、**大事故を未然に防ぐためには、日ごろから不注意・不安全な行動による小さなミス、ヒヤリハットが起きないようにすることが**きわめて重要であり、ヒヤリハットなどの情報をできるだけ早く把握し、的確な対策を講じることが必要であるということです。



保護帽(ヘルメット)の安全性について

ヘルメットの耐用年数は使い始めてから**3年**ほどになります。

しかし、そのヘルメットに取り付けてあるヘッドバンドやあご紐などの着用体に関しては消耗が激しいので、使い始めてから**1年ほどの耐用年数**としています。ヘルメットの内装に関しては、1年ほどが交換の**目安**としています。



番号	名称		備考
①	帽体		頭部を覆う、硬いかく(殻)体
②	内装品一式	着壯体 ハンモック	保護帽を頭部に保持し、当たりを良くして衝撃を緩和する部品
③		着壯体 ヘッドバンド	
④		着壯体 耳ひも	保護帽がズレたり脱落するのを防止するための部品
⑤	着壯体 アゴひも		
⑥	衝撃吸収ライナー(KP/α) ※墜落時保護用のみ		発砲スチロール製等の衝撃を吸収するための部品 ※梱包材料ではありません

保護帽(ヘルメット)の正しい使用方法

●かぶり方	●ヘッドバンドの調節	●アゴひも
<p>保護帽はまっすぐに深くかぶり、後ろに傾けてかぶらないようにしてください。(あみだかぶりをしないでください。) ※あみだかぶり 保護帽の前があがっている、または前が下がっている状態</p>	<p>ヘッドバンドは、頭の大きさに合わせ調節し、確実に固定してください。(ヘッドバンドの調節が悪いと、使用中にぐらついたり脱げやすく、保護性能を十分に発揮することができません。)</p>	<p>アゴひもは緩みがないようにしっかりと絞めてください。着用中は、ゆるめたり外さないでください。(事故のとき、保護帽が脱げて重大な傷害を受けます。)</p>
<p>●脱げ防止機構付耳ひも 耳ひもからアゴバンドを取り外したときは、アゴバンドを脱げ防止テープに必ずくぐらせて、耳ひも本体に取り付けてください。</p>		

保護帽(ヘルメット)の耐用年数は使い始めてから3年です。センターでは保護帽(ヘルメット)を1つ2,000円で販売しています。

保護帽点検・チェックポイント

このような保護帽は使用しないでください
縁に欠損または亀裂のあるもの
衝撃の跡が認められるもの
すりきずが多いもの
汚れが著しいもの
メーカーがあげた以外の穴があいているもの
ガラス繊維が浮き出しているもの
着装体取付部に亀裂があるもの
著しい変色が認められるもの
帽体と着装体の取付部に破損・滅失等があるもの
変形しているもの
このような場合、部品を交換してください。
<input checked="" type="checkbox"/> 着装体・アゴひも
使用者が改造したもの
環ひもが伸びたり著しく汚れているもの
縫い目がほつれているもの
ヘッドバンドが損傷しているもの
汗、油等によって著しく汚れているもの
アゴひもが損傷したり著しく汚れているもの
ハンモックが損傷しているもの

期限切れの保護帽を使用していたらどうなるの？

期限切れの保護帽(ヘルメット)を使用していると、アゴにより柔らかく、またフィット性を保てるように内装部分に入れてある衝撃吸収ライナーの部分が潰れたり、へこんでしまったりする。すると衝撃をモロに感じてしまうことにもなりますし、保護帽がズレやすくなります。後ろに保護帽がズレたりすれば、あご紐が首にかかり、食い込んでしまうこともあります。思わぬ事故につながりやすくなりますし、ズレてばかりで仕事にならないこともあります。内装部分にも幾つもの環紐やハンモックが頭全体のバランスを支えているものですが、そのバンドなども汗や頭皮の脂、紫外線などで劣化します。劣化して切れやすくなっていたり、伸びたりすれば保護帽がズレやすくなってしまい危険です。

最近1年が早く過ぎゆくように感じていませんか？

年齢と体感時間					
1歳	365日	11歳	33日	21~23歳	16日
2歳	138日	12歳	30日	24~25歳	15日
3歳	122日	13歳	28日	26~29歳	13日
4歳	91日	14歳	26日	30~34歳	11日
5歳	73日	15歳	24日	35~40歳	9日
6歳	61日	16歳	23日	41~48歳	8日
7歳	52日	17歳	21日	49~56歳	7日
8歳	46日	18歳	20日	57~66歳	6日
9歳	41日	19歳	19日	67~81歳	5日
10歳	37日	20歳	18日	82~100歳	4日

1年が早く感じることを「ジャンーの法則」といいます。この法則は「人生のある時期に感じる時間の長さは年齢の逆数に比例する」というものです。解りやすくいうと、歳を取るにつれて自分の人生における「1年」の比率が小さくなるため、体感として1年が短く、時間が早く過ぎると感じるということです。

